



# CIVIC FORCE

## NEWS LETTER Vol.11

ニュースレター (Mar, 2017)



東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市では、震災をきっかけに地域の魅力を再発見し後世に伝えていく取り組みが始まっています。写真は地域塾「すなどり先生」の一コマ (p3 に詳細) ©maru-office

### 東日本大震災から 6 年、熊本地震から 1 年

#### Contents

#### P2 被災地を支援する

##### 【東日本大震災】

- ・「夢を応援プロジェクト」奨学生に本を
- ・VOICE ～東北の復興は今
- ・共益投資基金 JAPAN

##### 【熊本地震】

- ・熊本版「NPO パートナー協働事業」新しいプロジェクトがスタート

#### P7 緊急即応体制を創る

- ・「ファンドレイジング日本 2017」に登壇
- ・チャリティ試飲会開催
- ・メディア掲載

ほか

発行日：2017年3月

発行：公益社団法人 Civic Force  
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12  
富ヶ谷小川ビル 2 階

TEL：03-5790-9366

e-mail：info@civic-force.org

URL：http://www.civic-force.org

2011年3月11日の東日本大震災から6年以上が経ち、被災した地域の復興に向けた取り組みは7年目に入りました。

津波に襲われた沿岸部などでは、宅地造成や災害公営住宅の建設などが着々と進められていますが、住み慣れた場所を離れて避難先で暮らす人の数は、今も約12万3000人にのぼります。

この春、福島県では、帰還困難区域を除く大部分の地域で避難指示が一斉に解除されますが、戻らない選択をする人が多いのが現実のようです。

また、Civic Forceが発災直後から今年1月まで支援活動の拠点を置いた宮城県気仙沼市では、今春、スタッフもお世話になった仮設商店街の気仙沼横丁と紫市場が、その役目を終えて閉鎖されます。

今月のニュースレターでは、Civic Forceの東日本大震災支援活動の“その後”について、気仙沼の復興に携わる人々の声をまじえてお伝えします。また、設立から5年が経過した「共益投資基金 JAPAN (元：東北共益投資基金)」の今後の計画と、「夢を応援プロジェクト」の新企画についてご報告します。

このほか、発災から間もなく1年を迎える熊本では、「NPO パートナー協働事業」の枠組みで新たに2つのプロジェクトがスタートしました。地域の主体的な復興の動きや私たちの活動について引き続きご関心をお寄せください。

## 被災地 を 支援する

東日本大震災や熊本地震の支援活動をはじめ、日本各地で発生する災害時の緊急支援活動についてお知らせします。

### 東日本 大震災

### 夢を応援プロジェクト 奨学生に図書を寄贈

Civic Force は、2017年2月～3月末日まで、東日本大震災支援「夢を応援プロジェクト」の奨学生を対象に、図書寄贈プログラムを実施してい

ます。

寄贈図書は、『コーヒーが冷めないうちに』、『嫌われる勇気』、『何者』など近年の話題作や、『影響力の武器』、『伝え方が9割』、『7つの習慣』といったビジネス書など15タイトル。このなかから希望の1冊を申請してもらい、後日、感想文を提出することを条件に、順次希望図書を進呈します。

### 【東日本大震災支援】「夢を応援プロジェクト」とは

「夢を応援プロジェクト」は、震災によって経済状況が急変、悪化し、就学継続が困難な状況にある被災地の高校生が社会人になるまでの最長7年間（2019年3月末日まで）、月額3万円の奨学金を給付するとともに、東北の復興に貢献したいと考える若者をサポートする教育プログラムを実施しています。

Civic Force では引き続き奨学生のための募金を受け付けています。また、全国のローソングループの店舗では、「夢を応援基金」の募金を受け付けており、3月7日からは東北の食材を使った弁当やケーキなどの復興応援商品が販売されています。

引き続き、皆様のあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

#### 【「夢を応援プロジェクト」へのご寄付（東北指定寄付）】

◆三井住友銀行 青山支店 普通 6973031  
公益社団法人 Civic Force（シャ）シビックフォース

◆ゆうちょ 00100-1-662850  
公益社団法人 Civic Force

※「夢を応援プロジェクト」へのご寄付は、教育プログラムの実施に活用させていただきます。奨学金には使用されませんので予めご了承ください。



## VOICE

～被災地の復興は今

過疎化や高齢化に伴う農林漁業の衰退など、被災した地域が震災前から抱える課題は深刻です。地域の中長期的な復興を見据えて Civic Force が実施した「NPO パートナー協働事業」や「中長期復興支援事業」は、今どのような形で発展を遂げているのでしょうか。被災地で立ち上がり、現在も活躍中の皆さんに聞きました。



### “観光の街”として盛り上がる気仙沼

一般社団法人  
リアス観光創造プラットフォーム

森 成人 さん（所属：気仙沼市）

東日本大震災を受け、気仙沼市は「観光産業」を水産業に並ぶ新たな基幹産業として位置付け、気仙沼市観光戦略会議を立ち上げました。「一般社団法人リアス観光創造プラットフォーム」は、この戦略会議が打ち出した方策を着実に実行していくための仕組みづくりを担う組織として、Civic Force などの後押しを受けて、2013年6月に設立。地域に観光の街としての意識を根付かせるため、市外の地域プロデューサーやメディア関係者なども巻き込みながら、気仙沼にしかない持ち味を掘り起こしています。

設立からもうすぐ4年、今、大きな手応えを感じています。港町ならではの仕事場や遊び場を体感できる「ちよいのぞき」は、2015年に不定期開催で始まり、2016年からは毎月、そして今年4月からは毎週開催されます。また、地域の魅力を再発見する「ば！ば！ば！」は、この3年で20回以上開催し、住民が一体となって気仙沼を案内する名物イベントになっています。

気仙沼の水産物を使った食の開発プロジェクトなども展開し、2015年には「観光庁長官賞」を受賞しました。自治体や団体からの視察依頼も多く、昨年は安倍首相が気仙沼の観光の取り組みを視察。地域全体が危機意識を持って人口減に伴う経済縮小の課題に向き合っています。観光の街として盛り上がる気仙沼を、ぜひ今こそ“体感”しに来てください。

### U・Iターン率上げる“仕掛人”に

一般社団法人  
まるオフィス代表理事

加藤 拓馬 さん

東日本大震災を機に気仙沼に移住した若者と地元の若者が一緒になって、2015年春に一般社団法人まるオフィスを立ち上げました。「地域に自分ゴトを」という理念をきっかけ、気仙沼のUIターン率と地域の人材力を上げる“仕掛人”を目指しています。

地元の若者が卒業後に気仙沼を離れてしまう現状を変えようと始めた企画「すなどり先生」は、地元の中高生が気仙沼の漁師に海の仕事を学ぶ地域塾です。参加した子どもの中には「漁師を目指したい」という声もあり、手応えを感じています。これらの活動は、地域の魅力を発見しようと2012～13年にCivic Forceの支援で立ち上げた団体「からくわ丸」の“まち歩き”の経験が生きています。

また、2016年10月にプレオープンした気仙沼市移住・定住支援センターの窓口で、空き家や仕事、街の情報を紹介しています。移住促進の取り組みはこれからですが、単に人を増やすだけでなく、より持続的でおもしろいまちづくりにつなげていきたいです。

気仙沼は震災後、外からたくさんの方の支援を受け入れ、もともとの漁師町の気風もあって“開かれた田舎”と言えます。私自身も移住者ですが、人材が不足するなか、地域で“替えの効かない存在”になりうるチャンスも広がっていると思います。日本全国で深刻化する過疎化の課題と向き合い、生き残る街のモデルケースを作り上げたいです。





東日本大震災で被災した地域の事業者を支援するため、2011年12月、Civic Forceの寄付金を原資に立ち上がった「東北共益投資基金（現：共益投資基金 JAPAN）」。これまでに14案件に1億6400万円を投資し、雇用の拡大や経済効果を生む地場産業の中核事業者に対する経営支援や販路拡大のサポートを続けてきました。現在、多くの支援先が事業を継続し、売上高の拡大や雇用の維持・拡大につなげています。

設立から5年以上が経過し、今後は基金設立のもう一つの目的である「二度の資金循環」の実行を目指します。支援先の収支改善を確認し償還が可能となった段階で、可能なかぎり当初の資金支援分までの償還を受け、最終的には地元資本に還元することで、各事業者が地域を支える企業として続いていくようサポートします。9月末を目処にまず1件の一部償還を検討しています。

## 【東日本大震災支援】

### 東北事務所閉鎖のお知らせ ～次の大規模災害に向けて

Civic Forceは、2017年1月末をもって東北事務所を閉鎖しました。

2011年3月11日、Civic Forceは、東日本大震災発災直後に連携する静岡県袋井市の倉庫から支援物資を移送するとともに、企業各社へのよびかけを開始し、翌3月12日にヘリで被災地に入りました。以降、物資の大規模調達・配送、離島へのカーフェリー就航、手作り風呂の設置、社員ボランティア派遣、NPOパートナー協働事業などの活動を展開し、2012年夏からは「中長期復興支援事業」を通じて、被災した地域の中・長期的な復興を応援してきました。

この間、Civic Force東北事務所は、岩手県一関市千厩町、宮城県気仙沼市田中前などを拠点とし、2014年1月から気仙沼市赤岩牧沢へ移転。2009年に発足したばかりだったCivic Forceにとって、東日本大震災での支援活動

は団体始まって以来初の大きな挑戦の連続でもありました。

この場を借りて、多くの関係者の皆様へスタッフ一同よりお礼申し上げます。なお、東日本大震災・中長期復興支援事業「夢を応援プロジェクト」を通じて、引き続き東北で被災した学生たちへの奨学金・教育プログラムは続けていきます。

また、自然災害の多いアジア太平洋地域に東日本大震災の経験や教訓を伝えていく「一般社団法人アジアパシフィックアライアンス（A-PAD）」の加盟国は現在6カ国。今後さらに多くの国・地域へ広げていくほか、レスキューチームでは次の大規模災害に向けた訓練にも励んでいます。

いざというとき、「Civic Force（市民の力）」を結集して迅速かつ大規模に支援を届けられるよう、引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



## 熊本版「NPO パートナー協働事業」 新しいプロジェクトがスタート

熊本地震の被害を受けた地域の復旧・復興をサポートするため、Civic Force は 2016 年 6 月から「NPO パートナー協働事業」を実施しています。第 1 期では 3 団体とのプロジェクトを行い、昨年 12 月からは 2 期として女性や子ども、障がい児・者の支援を行う地元団体とのプロジェクトがスタート。3 月からは新しい 2 つのプロジェクトが始まりました。

### LGBT-JAPAN

#### 性的マイノリティ配慮の視点、被災地でも

日本の人口全体の約 7.6%と言われる同性愛者や性同一性障害などの性的マイノリティ「LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー）」。日本ではまだ認知度が低く、熊本地震の被災地でも彼らが抱える悩みや課題などは見過ごされていました。

そこで、Civic Force は LGBT に関する講演やイベント、企業からの委託調査など多岐にわたる事業を実践してきた「LGBT-JAPAN」とともに熊本地震後の被災地における現況調査と心のケアのプロジェクトを開始します。

LGBT-JAPAN は 2016 年 7 月、Civic Force が益城町で運営していた避難者用ユニットハウス周辺のトイレ・シャワーブースなどを視察。LGBT 当事者への配慮不足を確認し改善策を提案する一方、被災地において悩みを抱える人々が相談しやすい環境をつくり、災害時の課題を洗い出す必要性を感じたといいます。

この協働事業が Civic Force の今後の災害対応にも生かされるよう連携・協力していきます。



これまで LGBT 当事者に配慮した避難所や仮設住宅などは少なかったため、協働事業を通じて課題の洗い出しや今後の避難所運営に役立つ視点の獲得を目指します

### Reborn ネットワーク

#### 西原村の地域再建を支える次の一手



農業やまちづくり、集団移転の先進事例の視察支援など、さまざまな支援団体が活動する西原村。今後は Reborn ネットワークがハブとなって村民のサポートを続けます

住宅の全半壊が 1000 棟を超えた西原村では今、集落ごとの集団移転や地域再建に向けた話し合いが進められていますが、人口減少を抱える集落の維持や住宅再建、移転する人と残る人との関係づくりなど、一人一人の思いを尊重した上で地域の復興を進めていくのは容易ではありません。

そこで、西原村の復興に貢献するネットワーク組織「Reborn ネットワーク」との協働事業を通じて、集団移転の先進事例紹介や専門家の派遣などをサポートしていきます。Reborn ネットワークには、「西原村社会福祉協議会」や「被災地 NGO 協働センター」、村民の自発的な地域づくりを支える「わかば meeting」、農業復旧を後押しする「百笑応援団」など、西原村の復旧に携わってきた内外 10 団体が参加。団体間の情報共有の場づくりの役割を担うとともに、ボランティアの受け入れと派遣を通じて移り変わる人々のニーズに丁寧に応えていきます。

## 地域をつなぐ熊本発のプロジェクト

熊本地震の発生から間もなく1年が経ちます。熊本地震で被災した地域の復旧・復興をサポートする「NPO パートナー協働事業」2期では、地震をきっかけに生まれた団体の地域づくりやネットワーク強化など熊本で生まれた先進的な動きを後押ししています。

### 熊本子ども・女性支援ネット（KCW）

### 地震と保育、振り返るシンポジウム開催

熊本地震をきっかけに立ち上がった「熊本子ども・女性支援ネット（KCW）」は、2月26日、熊本市内で保育の視点から熊本地震を振り返るシンポジウムを開催しました。

第1部では、熊本地震の際、避難者を自主的に受け入れた保育園のスタッフらが登壇。災害時における保育園の役割や課題について語りました。続く第2部では、被災した地域の保育士を他地域のベテラン保育士などがサポートする

「社会的保育士派遣プロジェクト」の役割に焦点を絞り、被災地に派遣された保育士と受け入れ先の保育園が、それぞれの経験を共有。災害時にも子どもが笑顔でいられるような避難所のあり方やこれからの保育について語り合いました。

Civic Force では、被災した女性や子どもの心のケア、関連団体のネットワークづくり、そして保育士派遣プロジェクトに挑戦する KCW の活動を後押ししています。



避難者を自主的に受け入れた保育園の園長らが登壇し、それぞれの経験や課題を共有

### Arts and Sports for everyone（ASE）

### 銀メダリストと“ボッチャ”で交流

パラリンピックの正式種目であるユニバーサルスポーツ「ボッチャ」を通じて、仮設住宅住民の孤立化防止や知的障がい児・者の社会支援を行う「Arts and Sports for everyone（ASE）」は、1月20日、出水南小学校（熊本市）で開催されたボッチャ交流教室（NHK 厚生文化事業団主催）で、ボッチャの貸し出しや前日・当日の準備に協力しました。当日は4年生から6年生までの約400人が参加してボッチャの魅力や難しさを体

験しました。

ASEでは、このほか熊本地震で露呈した障がい者への理解不足の課題を解決するため、特別支援学校と仮設住宅住民との交流イベントや障がい者復興スポーツフォーラム開催に向けた準備を進めています。

Civic Force は、引き続きボッチャを通じて障がいのある人・ない人の垣根を取り払う活動に力を注ぐ ASE をサポートしていきます。



リオ・パラリンピック銀メダリストの杉村英孝選手と廣瀬隆喜選手が熊本の小学生と交流



## 緊急 即応体制 を創る

大規模災害時の緊急即応体制を整えるためのさまざまな取り組みを行っています。メディア掲載やご協力いただいている皆様の関連情報もお知らせします。

緊急即  
応体制

### ファンドレイジング日本に 大西が登壇

日本ファンドレイジング協会が主催する「ファンドレイジング・日本 2017」が3月18、19の両日、東京都内で開かれ、代表理事の大西健丞が19日のセカンドデイ・オープニングセッション「collective impact-collective fundraising」と「プラットフォーム型レポリューション」で災害支援の仕組みづくりや社会的インパクトについて、これまでの経験やアイデアを交えてりました。



メディア

### 医療系サイト「DtoD コンシェルジュ」掲載

医療系サイト「DtoD コンシェルジュ」の連載「社会貢献ジャーナル」で、Civic Force の活動が紹介されました。

### オズビジョンで掲載

(株)オズビジョン運営のポイントサイト「ハピタス」ブログで、Civic Force 事務局長へのインタビューが掲載されました。

<http://www.civic-force.org/media/>

緊急即  
応体制

### 1日33円から できることがあります

次の大規模災害に向け、平時から備えておくために、皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額（1000円単位）をご寄付いただく形で、大規模災害にともに備えてください。

■銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ゆうちょ：00140-6-361805

（上記いずれも口座名義は「コウエキシャダンホウジン シビックフォース」です）

■クレジットカード：HP「オンライン募金」をクリックしてください。

[https://bokinchan2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bokin\\_type=donation](https://bokinchan2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bokin_type=donation)

※ニュースレターのバックナンバーは、

<http://www.civic-force.org/news/newsletter/>からご覧いただけます。

緊急即  
応体制

### ファインズ チャリティ試飲会開催

2011年から毎年開催されている(株)ファインズのチャリティ試飲会が、今年も3月4日に開催され、入場料およびワインの有料試飲、有料セミナーで集まった全額がCivic Forceの東日本大震災支援事業に寄付されました。

緊急即  
応体制

### 1日1回 1クリックするだけ

1日1回1クリックするだけで社会貢献につながります。

■「gooddo (グッドウ)」  
<http://bit.ly/17Xr7N3>

■PSC クリック募金  
・東北支援  
<http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/index.html>





**CIVIC FORCE**